

2023年2月14日

各位

会社名 株式会社ストリームメディアコーポレーション
代表者名 代表取締役社長 金 東佑
(証券コード 4772 東証グロース)
問合せ先 取締役経営企画部門長 山田政彦
TEL : 03-6809-6118

2022年12月期 通期連結業績予想と連結業績との差異
個別業績と前期実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2022年8月10日に公表いたしました2022年12月期通期（自2022年1月1日至2022年12月31日）の通期連結業績予想と本日公表の実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、2022年12月期の個別業績においても、前期実績値との間に差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 通期連結業績予想と実績値との差異について

2022年12月期通期連結業績予想と実績との差異（自2022年1月1日至2022年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	百万円 7,217	百万円 △316	百万円 △301	百万円 △162	円 銭 △1.40
実績値 (B)	7,078	△381	△366	△303	△2.62
増減額 (B-A)	△138	△65	△65	△141	
増減率 (%)	△1.9	-	-	-	
(参考) 前期実績 (2021年12月期)	5,631	△648	△632	△286	△2.47

2. 個別業績と前期実績値との差異について

2022年12月期個別業績と前期実績値との差異（自2022年1月1日至2022年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 5,563	百万円 △608	百万円 △581	百万円 △29	円 銭 △0.26
当期実績 (B)	6,873	△358	△343	△270	△2.34
増減額 (B-A)	1,310	249	238	△241	
増減率 (%)	23.6	-	-	-	

3. 差異の理由

2022年12月期の業績につきましては、度重なる新型コロナウイルス感染拡大の波も断続的に発生しておりますが、感染対策に万全を期した結果、大型公演の開催も増加傾向にあります。一方、メディア業界では多チャンネルサービス加入世帯減少、韓国コンテンツの人気沸騰による著作権獲得競争の激化が続いているだけでなく、当連結会計年度では稀にみる円安が進んだ結果、著作権価格はさらに高騰し、市場環境は厳しい状況にあります。

このような状況の中、コンサート事業では当期においては97公演およそ75万人を動員しました。しかしながら、コンサート市場は復調基調ではありますが、公演数の急増に伴う人材不足や、世界的な物価高と円安による機材・経費等の価格高騰も生じています。放送事業においては、グループシナジーを活用したプレミアムコンテンツの獲得を推進し、バラエティ豊かな番組を編成し他チャンネルとの差別化を図ってまいりました。また、ライツ事業は、全世界的に韓国コンテンツが人気を博し脚光を浴びる機会が増加、国内でも高いニーズを維持しておりますが、著作権価格の高騰が続いているなど厳しい状況にあります。

また、当社が運営する韓流チャンネルKNTVの付帯サービスであるKNTV+を、当初計画値に比べ会員数の低迷や他の強力な有料配信サービスにより、当該サービスは今後期待どおりの成果が見込めないことから、65百万円の特別損失を計上しております。

その結果、2022年12月期の通期の連結業績につきましては、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は前回発表数値を下回りました。

個別業績につきましても、売上高、経常利益、営業利益が前期実績値を上回りましたが、前期は契約解約益及び子会社の債務超過解消による貸倒引当金の戻入等を特別利益に計上したため、当期純利益は前期実績値を下回りました。

以上